

# 令和5年度 第1回中津川市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日時：令和5年8月3日(木)

13時30分～15時00分

場所：健康福祉会館4階 多目的ホール

出席者：10名出席（6名欠席）協議会成立の報告

事務局：市民福祉部 部長 福祉局長 地域包括支援センター職員

## 1. 委嘱書交付

交代委嘱 1名

## 2. あいさつ

会 長 コロナ9波と国は言わないが、そうとれる状況がある。当法人でもコロナのために職員が欠席している状況。高齢者等弱者に対して私たちは気を引き締めて当たる必要がある。

前回キーパーソンとなるのは地域のケアマネジャーと話をした。今後の事を見据えて地域を考えていく。市を挙げて取り組んでいく事が大切。地域の問題を洗い出して、それに向かって取り組むことが大切。本日は期待している。

## 3. 議題

### (1) 令和4年度事業実績等について

資料1に沿って事務局説明

議長意見 これだけ多くの事業をやっているが、中津川市として、地域の特徴や力を入れているところなどはあるのか。

事務局 この後から、各地域の取り組みにて説明させていただく予定です。

議長意見 虐待について、虐待は絶対に起こってはいけない、防がなくてはいけない。しかしながら、家庭の中などではどうしても起こってしまう。介護をしているとそのような精神状態に陥ることもある。そこを起こさせないために、ケースカンファレンスなども行っていく必要があるのではないか。どういった状況で起こりやすいかなど皆で共有して、認識していく事が大切。どうすれば良かったのか、サービスの入り方の検証などもできる。

### (2) 令和5年度重点的に取り組む事業について

資料2に沿って事務局説明

#### ○中津川市ひだまり苑地域包括支援センター

議長意見 互助の面で活発な活動があるようだが、地域包括ケアシステムネットワークというの

は、互助のシステムの横のつながりを充実させていくということか？具体的にはどうしているか？

事務局（委託包括） これまで各団体の代表者などに個別でこの地域包括ケアシステムネットワークの大切さについて説明してきた。その中で、システムづくりの会議をしようと調整していたが、コロナ禍となり中止になってしまったため、今年は再開したいと考えている。

議長意見 各団体とは？

事務局（委託包括） 民生委員、老人クラブ、民間ボランティア。社協が中心に活発に活動できているという印象がある。

議長意見 民間のボランティアはどれくらいあるのか。

事務局（委託包括） 新たにスモールサポートという、まち協中心に立ち上げて頂いた有償ボランティアがある。そことの連携も深めていきたいと考えている。

#### ○中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター

議長意見 事業のネーミングが良い。若い世代も入りやすい工夫は大事。今どきは80、90代でも介護保険使わず、マレットゴルフをやったり、元気な人も多い。垣根を取っていく事。イメージがある。参加しやすいネーミングが良い。

#### ○中津川市シクラメン地域包括支援センター

議長意見 高齢化率高い。アンケートから何か読み取れること、興味を引く事柄はあったか。

事務局（委託包括） 「自宅で住み続けたい」という人が多い反面、「家族に迷惑をかけたくない」という人も同じくらい多かった。

議長意見 これは「人生会議」にもつながっていくものになる。現状や家族と本人の思いが一致しているのか、かけ離れているのか。そんなことが大事になっていくと思う。「人生会議」という名前自体に疑問も感じるころではあるが、これについては今後も取り組んでいってほしい。

#### ○中津川市北部地域包括支援センター

議長意見 交流などがコロナで色々と寸断されてしまっている。コミュニケーションが大切。スキップは認知症予防にも大切。認知症カフェやサロンという言葉もあるが、この地域には無尽というものがある。“地域の〇〇無尽”のような地域と結び付けたもの。そんな地域性もあってよいのでは。

議長意見 それぞれご意見はどうか。

委員意見 コロナなどもあって交流が減っていたが、そんな機会が今後は増えていくのではないかと。今後出かける場を提供していく事が大切だと思った。

委員意見 コロナの扱いも変わってきている。地域の資源を活用しながら地域の人と連携して取り組みができると、より活性化するのではないかと考えた。

委員意見 五感健康法の会に参加していたが、コロナで会が解散した。施設にも行って活動していたが、外部からは入れなくなり、数年経過すると施設で工夫するようになって行かなくても成り立つようになり、必要なくなってしまった。また、この数年の間に会員も年を取ってしまった。3年間は大きい。会員が外にでて活動してくるという事がその人にとっていかに大切であったか分かった。

各地区の老人クラブについて、自分の地区は活動していて、他の地域からうらやましがられる。何か活動しているという事は交流がある。老人クラブが無くなった地域はそれに代わる何かが必要。ますます弱っていく。コロナの影響は大きい。地域では包括支援センターを知らない人がまだまだいる。なぜか？これは地域の温度差もあると思う。地域の雰囲気、活動の状況や民生委員さんの活動などそれぞれあると思う。個人情報保護が壁になっていて、区長さんや班長さん方も難しさがある。それぞれの地区の状況もあるのでそれぞれのやり方でやっていかなければいけない。

事務局 地域のコロナの影響は大変大きかったと思う。資料1でも話が出たが、予防事業など市でやっている事業もコロナ禍の間は人数が減っている。今後は参加することができなくなった地域の人たちに戻ってきてもらう事、さらに増やしていく取り組みが必要だと感じている。各地域でのネットワークづくりの話も出ていたが、色々な団体と連携して、先ほどのように孤立してしまっているような方にも周知が進んでいくように、地域包括支援センターに何かあれば相談してもらえるように結び付けていく取り組みを継続していきたい。また、地域で活動するSCさんの行う地域のサロンにも出前をしている。そのような場にもつなげてけるような取り組みもしていきたい。

議長意見 委員の話聞いてはっとした。ボランティア事業について、ボランティアをやっている方も介護予防になっている。施設の方もボランティアがいなくなったのではなく、入ってもらえない状況であるというのが実情であると思う。

委員意見 おばあちゃんの介護をしている。集まりの場は耳が聞こえなくなり話が分からなくて「悲しい」という。行きたくなくなってしまった。それでも周囲の人に声をかけてもらって助けられている。

議長意見 耳が聞こえないと疎外感あると思う。

委員意見 包括が特別な感じ。お年寄りと言っているのか。80歳前でも働いていると、「予備軍」なのに包括の活動をしない。自分はまだだと思ってる人がいる。75歳すぎの人と話しても、「私はまだ」という。せっかく活動を計画して回覧板に入っても、私は違うと思ってしまう。軽く行けるような事だったら良いのではないかな。

また、民生委員をやっても個人情報の事で緊急連絡先を聞きたくても「息子の電話はちょっと」と言われてしまう。自分は民生委員なのでまだよいが、地域の人はずっと教えてもらえない。区長と民生委員とは壁があって、活動しにくい。今は難しい時代だと思う。

議長意見 いろいろな場面で個人情報の事が問われて難しい状況がある。

委員意見 介護保険で家族も苦しめないようにできるといいなと思う。

70代のフレイル予防とあったが、ちょうど、特定健診から後期高齢者健診に代わる。

そうすると指導の内容も「太らないように」としていたのが、「痩せないように」と変わる。そのチェンジをやっていけるとよい。

阿木地区のサークルに料理教室で呼ばれ何十年と継続していたが、コロナもあり皆、年を取り能力が落ちて、来られなくなってしまった。これまでは来れる方は安心と思っていたが、今度は皆さんが参加できる場を考えて、交流できる場があるといいなと思う。

委員意見 その方が望んでいるものかどうか、その方にとって良いサービス提供になっているか考えていく必要がある。単にサービスの事だけでなく、その人にとって本当の楽しみとは何かと考えていく事が大切だと思う。これは人生会議に繋がっていくものだと思う。その人の一人一人の人生観を見ながら考えていく事、また、認知症など色々があるとと思うが難しくなる前に、元気なうちから考えていく。名古屋の方では「もしバナカードゲーム」など活用している。違った形でも人生会議につながる事も考えていきたいと思う。

議長意見 「もしバナカード」とは？

委員意見 4人程度のグループで行う。いろいろな文言が書いてあるカードがあり、最後に残った物を見て、自身がどうしたいかがゲームを通して考える事ができるもの。

委員意見 コロナになる前は施設にボランティアなどにきて来てもらっていた。介護の質を上げる目的で外部からレクに来てもらっていたが、コロナ禍となり外部からは人が入れなくなった。最小限美容師さんのみなど。感染対策で食事もそれぞれの部屋でとなった。本当はボランティアさんなどに来てもらいたい。生活の質も上げられるように外部の人も入れるようにしたいが踏み切れない。コロナとなるといったん隔離する。長く個室で過ごすことになる。そうすると認知症が進み、ADLも落ちてしまう。介護度が一気に上がってしまう。その人の感染症の対策を行いつつというのが現状。

議長意見 コロナによって入所者の難しい問題が出てきている。

深谷先生総括というところでご意見を。

委員意見 数年前から話してきていた人生会議について、その人が終末期を迎えたときに、どこで最期を迎えたいのか、どんな医療を受けたいか、延命治療を希望するのかなど、頭がしっかりしているうちに、家族、友人、周辺の人と話をしていくもの。元々は海外からの考えでACPというわけのわからない言葉、日本語に訳すと人生会議と分かりにくい。会長の言う通り、もう少し良い言い方はないか。認知度はまだ20%くらい。もう少し多くの人に認識してもらい、考えてもらえるとよいと思う。

包括との関係は持ちつ持たれつできている。認知症予防などはどうなのか。相談があれば介護サービスに繋ぐことで終わってしまう。また、介護の現場は一生懸命介護予防に取り組む地域よりも、文化やスポーツなどが盛んな地域の方が、要介護者が少ない。皮肉な現状。介護予防もやりつつも別のところ、生き活きとした活力ある地域や社会を目指すところが本当なのではないかと感じている。難しいとは思いますが。

### (3) 令和5年度介護予防支援業務の委託先について

資料3に沿って事務局説明

議長意見 ケアマネ136人、その中で50・60代が大半。キーパーソンを維持できるように。  
今後高齢者の人物像は変化してきていく。そういった中で、対応も変化させていくべき  
と思う。

#### 4. その他

次回運営協議会は令和6年2月開催予定。